

整理番号 06

作成日 1992年12月17日

改訂日 2022年04月07日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : ミヨウバン、ミヨウバン粉末
供給者の会社名称 : 大明化学工業株式会社
住所 : 長野県上伊那郡南箕輪村3685-2
電話番号/FAX番号 : TEL 0265-72-4151 FAX 0265-74-5100
緊急連絡先 : 営業本部 TEL 03-3563-2491 FAX 03-3563-2498

使用上の制限 : みそに使用してはならない。
使用量は、アルミニウムとして、菓子、生菓子、又はパンにあつてはその1kgにつき0.1g以下でなければならない。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類¹⁾

健康有害性

皮膚腐食性/刺激性 : 区分3 (国連GHS分類)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A

※上記以外のGHS分類区分は、「区分に該当しない」又は「分類できない」

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 : 軽度の皮膚刺激
強い眼刺激

注意書き

安全対策 : 取扱い時は、保護メガネ・保護手袋・防塵マスク等を着用すること。
次亜塩素酸塩類との混合は避けること。(塩素ガスが発生するため)
取扱い後は、手洗い・洗顔・うがい等を十分に行うこと。

応急措置 : 皮膚に付着した場合、流水及び石鹼を用いて付着部を洗い流すこと。
刺激が続く場合は、医師の診断・手当てを受けること。
眼に入った場合、清浄な水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、刺激が無くなるまで洗浄を続けること。刺激が続く場合は、医師の診断・手当てを受けること。
吸入した場合、水でうがい後、新鮮な空気の場所で、呼吸しやすい姿勢で休息すること。気分が悪い時は、医師の診断を受けること。
飲み込んだ場合、水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水又は牛乳を飲むこと。気分が悪い時は、医師の診断を受けること。

- 保管 : 直射日光や高温高湿を避けて倉庫内に保管すること。
水濡れした場合は、金属を徐々に腐食するため、水濡れに注意すること。
臭いを吸収しやすいため、臭いのあるものの近くは避けて保管すること。
- 廃棄 : 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託して廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別 : 化学物質
化学名又は一般名 : 硫酸アルミニウムカリウム (カリミョウバン)
別名 : ミョウバン
CAS番号 : 7784-24-9
化学式 : $AlK(SO_4)_2 \cdot 12H_2O$
成分及び濃度又は濃度範囲 : 96.5%以上
官報公示整理番号 : 1-25、1-454

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 水でうがい後、新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息する。
気分が悪い時は、医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 流水及び石鹸を用いて付着部を洗い流す。
刺激が続く場合は、医師の診断・手当てを受ける。
- 眼に入った場合 : 清浄な水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、刺激が無くなるまで洗浄を続ける。
刺激が続く場合は、医師の診断・手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水又は牛乳を飲む。
気分が悪い時は、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 不燃性のため周辺火災に適合した消火剤を使用する。
- 使ってはならない消火剤 : 特になし。
- 火災時の特有の危険有害性 : 高温で分解する際、硫黄酸化物を発生する。
- 消火を行う者の保護及び予防措置 : 火災の種類に合った保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏出時の処理を行なう際には、保護具(8項)を着用する。
- 環境に対する注意事項 : 河川・水田等への漏出を防止し、一般市民・水棲生物への影響が懸念される場合には、直ちに関係官庁・供給者に連絡する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 漏出物は出来る限り掃き集めて空容器に回収する。回収不能分については、消石灰・炭酸カルシウム・ソーダ灰等を用いて中和後、多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 接触・吸入防止のために保護具(8項)を着用する。
- 安全取扱注意事項 : 全体換気装置・局所排気装置等を設置し、換気を行う。

接触回避	: 次亜塩素酸塩類（次亜塩素酸ソーダ・漂白剤・サラシ粉・カルキ等）と混合・接触すると有毒な塩素ガスが発生するため、混合・接触を避ける。水濡れにより、固化することがある。また、金属を徐々に腐食するため、水濡れを避ける。 臭いを吸収しやすいため、臭いのあるものの近くは避ける。
衛生対策	: 取扱い後は、手洗い・洗顔・うがい等を十分に行う。
保管	
安全な保管条件	: 直射日光や高温高湿を避けて倉庫内に保管する。 水濡れした場合は、金属を徐々に腐食するため注意する。 臭いを吸収しやすいため、臭いのあるものの近くは避けて保管する。
安全な容器包装材料	: 湿気を避けて密閉できる耐酸性容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度	: 日本産業衛生学会勧告値（2019年版） 記載なし ²⁾ ACGIH勧告値（2018年版） 該当なし ³⁾
設備対策	: 局所排気装置・全体換気装置・安全シャワー・手洗い・洗眼設備等を必要に応じて設置する。
保護具	
呼吸用保護具	: 一般型防塵マスクを着用する。
手の保護具	: 耐酸性用手袋を着用する。
眼及び顔面の保護具	: 保護メガネを着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 必要に応じて長袖作業着等の保護着を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 正八面体の結晶又は粉末
色	: 無色透明又は白色
臭い	: なし
融点／凝固点	: 約92℃
沸点又は初留点及び沸点範囲	: データなし
可燃性	: 不燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: 約650℃
pH	: 約3.6（1%水溶液、20℃）
動粘性率	: 該当しない
溶解度	: 9.2g／水100g（15℃）、15.4g／水100g（30℃） エタノール・ジエチルエーテル等には殆ど溶けない。
n-オクタノール／水分配係数(log値)	: データなし
蒸気圧	: 該当しない
相対密度（比重）	: 約1.75
相対ガス密度	: 該当しない
粒子特性	: 結晶、細粒、粉末（1mm 又は 0.5mm オールパス）

10. 安定性及び反応性

反応性	: 水溶液は酸性を呈し、アルカリ添加により pH を上げると白濁し、沈殿物を生成する。
化学的安定性	: 通常 of 取扱い条件では安定している。
危険有害反応可能性	: 次亜塩素酸塩類(次亜塩素酸ソーダ・漂白剤・サラシ粉・カルキ等)と混合・接触すると、有毒な塩素ガス (Cl ₂) を発生する。
避けるべき条件	: 溶解すると酸性を示すため、鉄等の酸性腐食容器は使用しない。
混触危険物質	: 次亜塩素酸塩類 (次亜塩素酸ソーダ・漂白剤・サラシ粉・カルキ等)
危険有害な分解生成物	: 加熱により約 300℃ で無水物となり、650℃ 付近より有毒な硫黄酸化物を放出し、950℃ で酸化アルミニウムと硫酸カリウムになる。

11. 有害性情報

急性毒性	: データなし
皮膚腐食性/刺激性	: 軽度の刺激性がある。 ¹⁾
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 強い刺激性がある。 ¹⁾
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: データなし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: データなし
誤えん有害性	: データなし

12. 環境影響情報

生態毒性 魚毒性	: データなし
分解性	: 加水分解により水酸化アルミニウムを生成する。 ¹⁾
生体蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 水に溶解後、消石灰・炭酸カルシウム・ソーダ灰等を加えて中和した後廃棄する。 廃棄の際は「廃棄物処理法」「水質汚濁防止法」等の関係法令を順守する。
汚染容器及び包装	: 水洗した後、関係法令を順守して適切に廃棄する。

14. 輸送上の注意

国際規制	: 該当しない
国内規制 陸上輸送	: 該当しない
海上輸送	: 原則として、海域において船舶から排出してはならない。
航空輸送	: 該当しない
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	: 取扱い及び保管上の注意 (7 項) を守り、包装袋の破袋・水濡れ・荷崩れに注意する。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法 : 施行令第18条、別表第9「アルミニウム及びその水溶性塩」
(表示対象物質、通知対象物質、リスクアセスメント対象物質)
- 水質汚濁防止法 : 施行令第3条の3「アルミニウム及びその化合物」 (指定物質)
- 食品衛生法 : 施行規則第12条、別表第1「人の健康を損なうおそれのない添加物」
- 主な適用外法令 : 毒物劇物取締法、化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)、消防法、
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律、高圧ガス保安法

16. その他の情報

引用文献

- ・ JIS Z 7253(2019)「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
- 1) 社内資料
- 2) 日本産業衛生学会雑誌 許容濃度等の勧告(2019)
- 3) ACGIHー化学物質と物理因子のTLV・化学物質のBEI(2018)

本安全データシート(SDS)の記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、新しい知見等により改訂されることがありますので、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。

また、記載事項は通常の手配を対象としたものですので特別な手配をする場合には、用途、用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。